

南部鉍石標本－山岡標本、筑波へ

坂 卷 幸 雄 (地質標本館地質標準課)

Yukio SAKAMAKI



写真1 再展示された南部鉍石標本一全景

これまで東北出張所に保管されていた南部鉍石標本と山岡標本が 去る8月末に筑波の地質調査所本所に移送され このほど一応の整理を終わりました。

これらの標本類は 東北大学で長らく鉍床学の研究に携わっておられた南部松夫・山岡一雄の両先生が 研究生活の間に蓄積された鉍石標本類を ご退官後 東北出張所に寄贈して下さったものが基本になっています。これらは所員を含む研究者はもちろん 同所を訪れる一般の人々にとっても 人間の生活と 資源を通じた母なる大地とのつながりを示すこの上ない教材として 広く親しまれ 活用されてきました。しかし 1988年10月に実施される地質調査所の機構改革によって その時点以後はゆかりの仙台の地に 展示や収蔵のためのスペースを確保することが事実上不可能な状況になってしまいました。

両先生のお気持はもとより 一般市民の方々からもこれらの貴重な標本類が仙台を離れることを惜しむ声は数多く寄せられてはいたのですが 私たちとしては事態をむしろ積極的にとらえ いまや国際的な研究センターとなりつつある筑波で より広い範囲の人々にこれらの標本の真価を知っていただくことも さらに有意義なことと考えました。幸い両先生共に この間の事情については深くご理解を頂き その上に立って 今回の移送もつつがなくとり運ばれたものです。

では 以下に南部鉍石標本・山岡標本のあらましにつ
1988年10月号

いてご紹介しましょう。

南部鉍石標本

南部鉍石標本(谷ほか 1984)は 東北大学名誉教授南部松夫氏が所蔵しておられた 全部で1,500点から構成されている展示用の標準標本です。先生のこれまでのご研究分野を反映して マンガン鉍石鉍物と 東北地方の主な金属鉍山産の鉍石鉍物が特に充実しているのが大きな特徴です。

地表に近いところのマンガン鉍物は 酸化してしまっ
てまっくろな「さび」になっている場合がほとんどですが この「さび」にあたる鉍物に正確な名前をつけることは非常にむずかしい仕事です。先生は緻密なご研究の中で 見かけが互いに似通っているこれらの鉍物をひとつひとつ区別され 正確な記載を行い 数々の学術論文として公表してられました。このコレクションの中の標本は こうした研究の裏付けのあるもので その学術的価値は計り知れないものがあります。

また 南部鉍石標本の中には 世界に先駆けてわが国で発見された新鉍物も数多く含まれます。先生自らが報告なさった マンガンを含む角閃石の一種である「神津閃石」や アルカリ元素や水を含む酸化マンガン鉍物である「万次郎鉍」は 先生の輝かしい業績の一端を示すものです。このような先生の学術的貢献を記念して 当所の吉井守正氏を中心とする研究グループは 岩手県舟子沢鉍山で新たに発見したりチウムとナトリウムを含むマンガンの珪酸塩鉍物— $(\text{Li}, \text{Na})\text{Mn}_4\text{Si}_5\text{O}_{14}(\text{OH})$ —を「南部石」と命名しました (YOSHII *et al.* 1972)。個人名を冠したコレクションのなかに その方のお名前になんだ新鉍物の標本が含まれているというのも 浅からぬ因縁といえましょう。

南部鉍石標本は 東北出張所に展示してあったときのレイアウトをほとんどそのまま引き継いで 当面 海洋研究別棟の2階ロビーに再展示されています。ここは 地質調査所で行われるさまざまな行事の核になる大会議室の入口に当たり 所内外の多くの人々の目が集まる絶好のポイントです。展示内容も先生がご自身で練り上げられたプランを踏まえており これからもできる

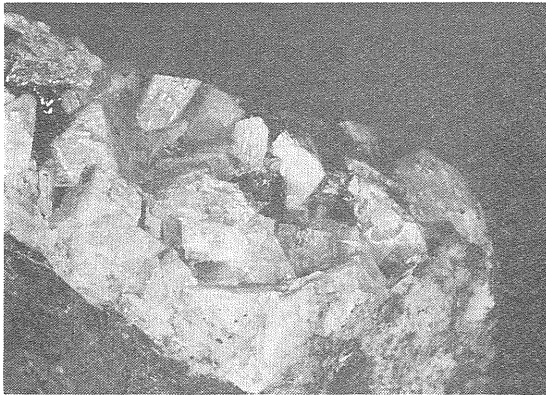


写真2 南部鉱石標本の中の南部石 ○淡色部：柱状自形結晶の大きさは約2mm，岩手県舟子沢鉱山産（標本番号：M-28436）

だけその基本線に沿って管理して行く方針です。平行してカタログ編集の作業もはじまっています。

また東北出張所では南部先生から展示用の標本のほかにも重複品を多数お受けしていましたがこの分については「東北地方での地学教育の振興に役立てたい」という先生のご意向に沿って一旦お手元にお返しし改めて公共的な研究・社会教育機関にゆだねられる運びとなっています。

山岡標本

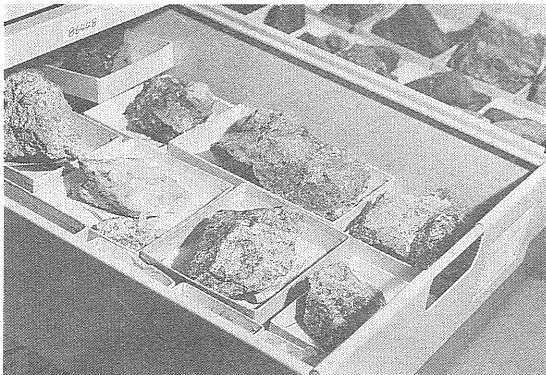


写真4 収蔵庫に整理された山岡標本

山岡標本も南部鉱石標本と同様 元東北大学教授 山岡一雄氏様がご在職中に収集された鉱石鉱物標本で 総数約1,700点に達します。南部鉱石標本と異なる点としては 研究用の素材標本としての性格を色濃く持ち したがって必要性が強い場合には 一部を再実験の試料として用いることについても先生のご了解が得られていることがあげられます。

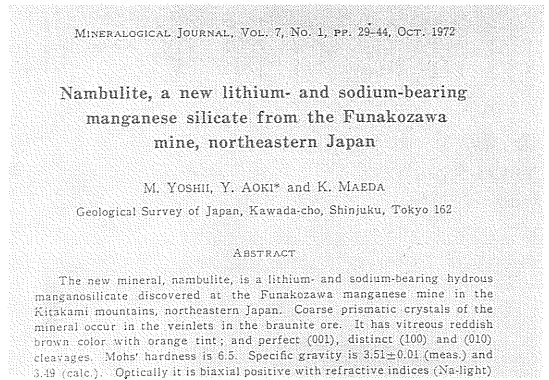


写真3 南部石の産出を報じた吉井・青木・前田論文

内容は東北地方を中心に一部東海近畿中国四国等も含む 金・銀・銅・鉛・亜鉛・鉄などの鉱石類が主体ですが これらを産出した鉱山が軒並み閉山に追い込まれ あらたな鉱石標本の入手が絶望的になってしまった現在 私たちにとってはまことにありがたい 価値あるプレゼントです。

山岡標本は収蔵庫への整理を終わりましたが リストがつけられていないので 現在 先生が記入なさった個々の標本のラベルからリストを作る作業に入っています。幸いほとんどのラベルには 鉱体のなかでの採集ポイントが詳しく書き残されています。このリストの完成を待って 近くその充実した内容がご紹介できるでしょう。

以上 話題の2つのコレクションのあらましをお伝えしました。ここに改めて両先生と 移送の実務に当たられた谷口政碩東北出張所長をはじめとする 所内外の皆様のご好意にお礼申し上げますとともに ぜひ 今後ともこれらの貴重な贈り物が有効に活用されることを心から期待するものです。

なお これらの標本の見学と利用に関するお問い合わせは 地質標本館地質標準課（電話：0298-54-3574）へお願いします。

参 考 文 献

谷 正巳・阿部智彦・谷口政碩・正井義郎（1984）：南部鉱石標本 地質ニュース（363），1-4。
 YOSHII, M., AOKI, Y. and MAEDA, K. (1972) : Nambulite, a new lithium- and sodium-bearing manganese silicate from the Funakozawa mine, northeastern Japan., *Mineral. Jour.*, 7, (1), 29-44.

（写真撮影：山川浩一，奥山康子）